

北信教育事務所だより 第4号

令和元年9月26日(木)

～教師・学校・地域がつながるために～

もくじ

- OS-P 表から授業改善の手がかりをさぐる 1
- つながる食育推進事業の実施について 2
- わくわくスポーツセミナー（出前講座）のご案内 3
- 信州型ユニバーサルデザインの推進シリーズ①
～須坂市立東中学校～ 4

S-P表から授業改善の手がかりをさぐる

9/19(木)に実施された第2回研究主任研修会では、今年度の全国学力・学習状況調査の結果をもとに、自校の分析や授業改善を進めるために、S-P表の活用に関する研修を行いました。そこで扱った活用例を3つ紹介します。

活用例① 個のつまずきへの対応

青実線（S曲線）生徒ごとに、左から数えて正答数の数に当たる所を結んだ線

青実線より左側

⇒ 児童生徒にとって比較的正答が容易だったと考えられる問題



活用例② 得意分野を伸ばす支援

白色 黄色 オレンジ色
生徒が正答した問題 生徒が正答できなかった問題 (セルの中の数字は解答類型番号)

青実線より右側

⇒ 児童生徒にとって比較的正答が困難だったと考えられる問題



活用例③ 学級全体の指導状況を振り返る

赤実線（P曲線）問題ごとに、上から数えて正答人数の数に当たる所を結んだ線
赤点線 全国の正答数の平均

赤実線が、赤点線よりも上にある問題

⇒ 当該学級の正答人数の割合が全国正答率よりも低かった問題



研修会に参加された先生方からは、学級の児童が同じような誤答をしている問題を突き止めたり、同じ問題でも学級間で差がある問題に気づいたりするなど、授業を振り返るきっかけができたという声が聞かれました。

全国学調等の結果分析から、2学期は、多くの学校で授業改善に向けた具体的な取組が行われることと思います。日常的に児童生徒の実態を把握するために「北信版S-P表」を活用することも有効です。各校の自立したPDCAサイクルの構築のために、ぜひご活用ください。

第3回 研究主任研修会 令和2年2月7日(金)

- ・実践発表（北信版S-P表）
- ・PDCAサイクルの振り返り
- ・来年度の研究の方向

ぜひご参加ください

つながる食育推進事業の実施について

長野県教育委員会事務局保健厚生課

本年度、長野県教育委員会では、文部科学省の委託事業を受け、**須坂市**においてモデル事業を実施しています。

この事業は、児童生徒の食に関する自己管理能力育成を目的としており、モデル校において教科横断的な食育指導や評価方法の開発、家庭へのアプローチ手法の開発、また栄養教諭間の連携による実践的な指導力向上等に取組んでいます。

須坂市教育委員会では、市健康部局と連携し、幼少期から中学校までの食育を体系化し、成長段階に応じて身につける力、学校や家庭における取組や役割を明確化し、市内全ての小中学校で栄養教諭と連携した食育が実施されています。県では、この取組を検証し、県内各地域における食育推進につなげていきたいと考えています。

今回は、この事業の一環で、**7月5日（金）須坂市メセナホール**で、**須坂市内全中学3年生及び保護者等を対象に行われた食育講演会**の概要をお伝えします。

講師：東北大学加齢医学研究所 所長 川島隆太氏

演題：朝食で脳が変わる！未来をひらく！～生活習慣を見直し、夢をつかもう！～

講演では、「バランスの良い朝食」による効果で将来の人生が豊かになること、「適切な睡眠時間」と脳の働き、「スマホ」との付き合い方、「読書の重要性」など脳科学の研究データに基づき分かりやすくお話いただきました。講演後には、読書の在り方や睡眠と学力との関係など、聴講した生徒からたくさんの質問があり、一つ一つ丁寧に御回答いただき、参加者の心に響く内容となりました。この他の取組についても、随時お伝えしてまいりますので、お楽しみに。



「出張版」 わくわくスポーツセミナー（出前講座） ～運動好きな子どもたちをいっぱい～

幼・保・小の先生方の学年会
打合せ会など
ちょっとした研修に…

学校や地域のパラスポーツ・
ニュースポーツの研修会に…

児童センターや放課後子ども
教室の指導員のみなさんの研
修として…

研修の機会も、少人数の会でも・
短時間でも…、訪問要請があれば、ご要望に応じます。

ボッチャ・ブラインドサッカー用具の貸し出しも行っております。お気軽にご連絡下さい！

講師が必要なとき伺います！ 【問い合わせ】 スポーツ振興担当：窪田 TEL 026-234-9552

地域ぐるみの共育フォーラムを開催します

豊かにたくましく生きる子どもを育てるために、学校関係者・社会教育関係者・保護者・地域の人々が一堂に会し、学校・地域・家庭それぞれができることを考え合い、よりよい連携・協働のあり方を共有し、地域ぐるみの「共育」を推進していくためのフォーラムです。

令和元年11月2日（土） 中野市豊田文化センター・中野市豊田支所

○開会行事（13:00～13:20）

○講演（13:20～15:00）

「長野県内のコミュニティスクールの取組から見えてきたこと（仮）」

公立大学法人 長野大学社会福祉学部准教授 早坂 淳 さん

○分科会（15:15～16:30）

【第1分科会】「ララカフェ豊田」 ララカフェ豊田代表 城本早月さん

【第2分科会】「長丘メディアコントロール」中野市立長丘小 教頭 上野恵佐夫さん

【第3分科会】「正受庵通学合宿」飯山市社会教育委員 藤田波留美さん

【第4分科会】「八幡っ子教室」千曲市八幡公民館 館長 宮崎衛さん

9月下旬から、各団体あてに開催要項を発送します。その他、お問い合わせは下記までお気軽にどうぞ。

【問い合わせ】

北信教育事務所生涯学習課 担当：岡田 絵美

〒380-0836 長野市大字南長野南県町686-1

電話：026-234-9552

FAX：026-234-9557

E-mail：hokushinky@pref.nagano.lg.jp



信州型ユニバーサルデザイン（信州型UD）の推進 シリーズ① ～須坂市立東中学校～

信州型UD推進校には、UDの取組を中心となって進めるUDリーダーが1名配置されています。また、UDリーダーと連携し特別支援教育の立場から協力するLD等通級指導教室担当教員が、推進校または近隣の学校に配置されています。東中学校のUDリーダーは友田直樹先生、LD等通級指導教室担当教員は田幸康宏先生（墨坂中）です。

授業参観・アセスメント

UDリーダーによる**授業参観**，TT支援。職員による子どもの困り感の把握。LD等通級指導教室担当による**授業参観**，**アセスメント**。

授業改善・支援方法の検討

UD連絡会（月1回）

UDリーダーが主催し、UD推進に関わる校内外のメンバーが参加。授業参観、アセスメントをもとに、授業改善の具体的取組や個別支援の方法を検討。



「授業が分かるようになりたい。みんなと一緒に勉強したい」と思っているけれど、うまくいわずに**困っている子ども**



全職員で実践

共通の授業改善・個別支援を**全職員で実践**し、成果と課題を情報交換。

授業改善・支援方法の共通理解

UD研修会（火曜日の朝、月2～3回）

UD連絡会で検討した内容を共有し、全職員で取り組む授業改善や個別支援の方法を確認。

【東中の信州型UDの着眼点】困っている子どもへの合理的配慮，理解を助ける配慮

「キラッ☆と輝く 子どもの先生の笑顔」 vol.2

学校訪問で出会った「笑顔」をコラム風に紹介します

学年が異なる、特別支援学級児童三人が、多くの紙コップを目の前にしたときのことです。最初は、それぞれ遊んでいましたが、そのうち、役割分担をしながらの、紙コップタワー作りへと変わっていききました。

いろいろな遊び道具を前にして、女の子三人は、どれで遊ぶのか迷っていました。「Aさんはどれがいい？」と先生が声をかけ、紙コップで遊ぶことになりました。最初はそれぞれ遊んでいました。横に並べるAさん。数段積んでは崩し、積んでは崩しを繰り返すBさん。素早くカップを積み、片付けるカップスタックを始めるCさん。しばらく思い思いに遊んだ後、先生やCさんからもつと高く積み上げられそうだという提案があり、紙コップタワー作りをするこ

とになりました。Cさんが三人にコップを配ってくれました。「誰から置く？順番は？」と、先生の促しもあり、Aさん、Bさん、Cさんの順番で、紙コップタワー作りが始まりました。タワーは二

目、三段目と積み上げていききます。しばらくすると、三人それぞれに違う様子が見られ始めました。Aさんは、ちょっと積み上がると、すぐ上の段に積もうとします。Cさんは下の段が不安定だと感じると、そこは飛ばして安定しているところに積みま

す。Bさんは、じっと考えてから、隙間ができてい

る所に置いていきま

す。先生は、途中からこの隙間ができて始めたことに気づいていました。でも、「ここ、空いているよ」と、声をかけることはしませんでした。温かく見守ったのです。Bさんの個性を理解してのことなのでしよう。Cさんが、最後の紙コップをてっぺんに積み上げた時、「やったー」と歓声があがりました。そこには、十段、五十個を超える紙コップタワーをバックに、写真を撮ってもらった三人の先生の笑顔が、輝いていました。

タワーは二

目、三段目と積み上げていききます。しばらくすると、三人それぞれに違う様子が見られ始めました。Aさんは、ちょっと積み上がると、すぐ上の段に積もうとします。Cさんは下の段が不安定だと感じると、そこは飛ばして安定しているところに積みま

す。Bさんは、じっと考えてから、隙間ができてい

る所に置いていきま

す。先生は、途中からこの隙間ができて始めたことに気づいていました。でも、「ここ、空いているよ」と、声をかけることはしませんでした。温かく見守ったのです。Bさんの個性を理解してのことなのでしよう。Cさんが、最後の紙コップをてっぺんに積み上げた時、「やったー」と歓声があがりました。そこには、十段、五十個を超える紙コップタワーをバックに、写真を撮ってもらった三人の先生の笑顔が、輝いていました。

【このエピソードから大事に考えたいこと】 ○ このように、《見守る》という「先生の姿勢＝支援」が、子どもたちの素敵な「笑顔」につながる可能性があります。一人一人の個性を理解した上で、支援をすることが大切であると、改めて先生の姿から学んだ時間でした。